

子どもや高齢者の空間研究

小学生の時、DIYで左官に挑戦し、子ども部屋の壁を下地ごと剥落させてしまう大失敗をした。その修復時に左官職人がしつこい壁を仕上げていく過程を見て、モノづくりの面白さを感じ、建築を志すようになった。しかし、学生時代は数学・物理が苦手だったため、必死に勉強して大学の建築学科に入學した。だから、リケジョクを名乗ることにいまだに気後れる。

入社後は商品開発部に所属し、収納やペット共生など、住まいに関わる身近なテーマを

凛としていきる

# 理系女性の挑戦

## 保育園設計で大きく成長



幅広く手がけた。現在は子どもや高齢者の空間に関する調査研究を行っている。

これまで担当した業務で一番忘れられないのは保育園の設計だ。

どの案件も同じだと思いが、保育園の建設は待機児童問題の解消に向け、計画立案から着工、開園までかなり厳しい工期で進む。何事も迅速に対応しなければならぬ。

一方、当時の私は保育園児を抱えた身で、仕事に対応できる時間には限りがあった。挑戦し

たい思いがある一方、本当にやりきれぬのか不安な気持ちも抱えていた。だが、挑戦の機会を頂いたおかげで技術者として大きく成長でき、当時の上司や関係者の方々に大変感謝している。この場を借りて改めてお礼を申し上げたい。

完成後は訪問する度に実際の使われ方をじっくり観察する。失敗は素直に受け止めて反省し、次のデザインに生かすよう心がけている。今後も研究と設計活動を行き来しながら

蚊帳の中で昼寝する子どもたち（ゴビープリスクールかみめぐろ）

度と照度を工夫した。睡眠の場として住宅並みの静かさを確保するため、以前から研究を進めていた吸音の考え方も取り入れた。

この提案は、他園と比べて子どもたちの寝付きが良いと保育士の先生方から大変好評だった。空間デザインが人の心理・行動に与える影響は小さくはないと実感し、その面白みを感じた瞬間だった。

空間デザインを通して少しでも世の中の役に立てるよう、さらに努力していきたい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）  
（火曜日に掲載）

▽ ミサワホーム総合研究所デザインセンター  
| 空間デザイン研究室主任研究員  
長谷川 恵美  
△

△ プロフィール △ 02年早大理工学研究所修士修了。同年ミサワホーム入社。07年から現職。

